平成２２年度平塚市地方卸売市場運営審議会　議事録

日時：平成２２年８月２０日（金）１３：００～１４：００
場所：平塚市地方卸売市場　会議室
出席者：出村光委員、黒部栄三委員、行川一郎委員、青木かつ子委員、久永千恵子委員、山田國夫委員、宇田川哲由委員、土井博泰委員、片倉栄一委員、田中邦男委員、長谷川芳久委員

１　開会
課長あいさつ
部長あいさつ
新委員紹介
事務局紹介
会長あいさつ

２
（１）平成２１年度市場の取引について
〈事務局〉（平成２１年度の取引状況について説明）
〈委員〉（質問等なし）
〈委員〉（卸売業者の決算状況の報告について説明）
〈委員〉（質問等なし）

（２）その他
〈委員〉卸売市場は四苦八苦している状態である。魚屋さんや、スーパーなどあちこち声はかけている。既存のスーパーの買い高が多くなればと努力しているところである。
〈会長〉皆様方のお知恵を拝借して、新しい販路があればいいと思う。
〈委員〉率直に厳しい運営をされていると考える。努力はされているが、それ以上の厳しさが外的要因としてある。市としてできることに限界があるとは思う。過剰な期待をされても不本意なことになるし、御社の努力が必要だと思う。あさつゆ広場は結構売れているという見方や実感をすることができるが、長く固定客が売上に参加できるのかということになると、心配になることがある。あさつゆ広場が開設して間もないため、市場とあさつゆ広場とがさらなる強靭な連携を敷くべきだと思う。もし連携がなければ強烈なアプローチが必要であり、あるのであれば、それ以上の物を求めていくべきだと思う。大きいところで知恵が欲しいといわれても困るので、どこかで一緒に考える部分があってもいいんじゃないかなと思う。
〈委員〉自然界を相手にしている会社であるため、なかなか難しいところもあるが、それ

でもどうにかやっていかなければならない。
〈事務局〉市民の方で平塚に港があって魚を獲っていることを未だに御承知にない方がいる。市ではそういった方々へのPRに注力している。平塚の特徴に、魚食普及協議会というものがある。魚市場と漁業協同組合と魚商組合、加工組合と市が入って作っているものである。普通こういった団体は中々くっつかないが、平塚はそれを連携して毎月一回の総合公園のふれあいマーケットや、競輪場と魚市場で開催する朝市などで団結しているところもある。さらに、地域の魚屋さんで繰り返し買いに来ていただきたいとの思いから、地域で調理講習等も魚屋さんや市場と連携しながら取り組んでいるところである。そういった部分で、今後も注力していって一人でも多くの地元の魚のファンというものを作っていきたいと考えている。また、今回始まった学校給食では、生では引き取ってもらえない。今回は魚市場でフィレ加工をして初めて給食へ納めるようになった。今回ひとつやったことで次の学校、また次の学校と繰り返すことができると思う。営業するときにも生ではなく切り身で対応できるといった部分も、非常に強い部分のため、今回の学校給食をきっかけにどんどん普及できたらと考えている。
〈委員〉学校への給食の話も今の魚の部分についても学校とのつながりをさらにパワーアップするべきだと考える。それから最後にもう一つ、広報ひらつかを通じて、家庭での魚の料理法などを紹介していくといった道もあると思う。
〈事務局〉子供たちが記者になって取材をする子供広報というものを年に１回出すが、９月の号で、平塚の農水産業特集ということで魚ではシラスを扱った。シラスと酪農とバラ、野菜、それを特集で９月号で出して紹介させていただいている。そういった部分で反響があればと思っている。
〈委員〉一回では駄目である。食は皆興味ある。いろんなレベルがあると思うが、難しくするととっつきにくくなる。
〈委員〉白いご飯と魚、漬物という組み合わせの和食は今の人はあまり食べない。私なりに調べたり考えたりしてた結論は、給食です。戦後６５年たって給食は子供たち、それが大人になって、また子供を産んで、その今は孫の世代になっているけども、従来型の日本の主食が西洋化して、病気もそれなりに西洋化しているが、日本のいい食の形が崩れ去って、コメもしかり、魚もしかりといった状況で、消費がどんどん落ち込んでいる。やはり子供の時の食生活が一番基本になり大人になってく。そういう意味からすると、子供たちを攻める、特に給食が一番身近じゃないかと思う。イワシのハンバーグとかシラスボールなど、いろいろな商品開発をされているが、そういうので魚の良さ、魚はおいしいんだというものを子供のころから植え付けさせて、長いスパンになるが消費拡大になると考える。

閉会